

2009(平成21年)2. 5

# 漢詩神奈川

第5号

神奈川県漢詩連盟

(〒241-0814)

横浜市旭区中沢3-39-9

電話045-361-2033

発行人 中山 清

編集人 田原 健一

## 港に響け！横浜の詩

### 開港150周年漢詩大会に参加を

会長 中山 清

会員の皆様、寒中お見舞い申し上げます。今年も宜しくお願い致します。

ご承知の通り、今年には横浜開港百五十周年で、我が神奈川県漢詩連盟としても、後世にも残るような記念の漢詩を漢詩大会を企画しました。締切りは平成二十一年三月末となっております。構想を練っておられることと存じます。奮ってご投稿下さるようお願い致します。

作詩上の参考になるような事例をとの編集長の依頼により、近作の拙詠をご披露します。

要は、「港」に拘泥せず、横浜に纏わる風物や歴史に少しでも係わりがあれば良しです。後はどう詩にするかです。ぐるりと目を廻して好い題材を見つけてください。

開国を主張し凶刃に斃れた井伊直弼の銅像を野毛の公園で見ました。

横浜掃部山看井伊侯像

銅人立像儼然姿 銅人の立像 儼然たる姿

向海衣冠束帯奇 海に向かつて衣冠束帯奇なり

開港苦衷誰得料 開港の苦衷 誰か料るを得ん

長風知否拂肩吹 長風知るや否や肩を払つて吹く

研修会の途中、山手の異人館や外人墓地を散策

しました。

展外人笠丘

深緑北郎塋墓連 深緑の北郎 塋墓連なる

先人功績汗青傳 先人の功績 汗青伝う

哀傷客死脚躡處 客死を哀傷して脚躡する処

汽笛瀏瀏自港邊 汽笛 瀏瀏 港辺よりす

港丘眺望

市聲聊脱立丹丘 市聲 聊か脱して 丹丘に立つ

港景瞭然一望収 港景瞭然 一望に収まる

跨海飛橋林立廈 海を跨ぐ飛橋 林立する廈

輕舠奔走舶悠悠 輕舠 奔走し 舶悠悠たり

本会の会報を捲って頂くと、創刊号に水城まゆ

みさんの「横浜港船遊」の詩や、第二号に小生の拙

文「明治初期に横浜港を詠んだ漢詩」が載っています。

一読してみてください。

何はともあれ、晴れた日に一日ぶらりとみなと

みらい界隈を散策されることをお勧めします。街の変貌にびつくりなさることと思います。夜、机にお坐りになると、きっと何かが心に残る筈です。それを詩にしてください。

傑作を心待ちしております。

さて、我県連盟は、昨年も皆様のご協力でもって会員数を順当に増やすと共に、色々な行事を充実した内容で滞りなく行うことが出来ました。昨年の全国規模の国民文化祭水戸の漢詩大会では、会員の受賞が相次ぎその活躍ぶりが注目されました。今年も裾野を広げ山を高くして、漢詩神奈川の流れをさらに清く力強いものにしたいと願っております。

当初から考えていました神奈川県漢詩壇(作品集)については、まだ心に掛かったままですが、その前に、今年にはなによりもまず開港150周年漢詩大会を成功させることと思っております。皆さんの積極的な参加協力をお願いして、年頭の挨拶とさせていただきます。

終

開港150周年記念の漢詩好評大募集中

締め切り迫る!!

平成21年3月末日まで

応募用紙など資料請求は事務局田原まで

TEL&FAX 045-361-2033



# ◆吟行会 盛況!

## 秋の鎌倉大仏、長谷寺

磯野 衛孝

前日、雷鳴轟き驟雨沛然として四隣を浄められ、翌六日は十二月としては暖かく快晴。これ全て吟行会の為なり。大仏前に「いざ鎌倉」とはせ(長谷)参ぜし者四十二名なり。

石川先生ご夫妻は余裕綽々、前日に鎌倉に泊まられ晴々とした姿でご登場。窪寺先生、中山会長も定刻前にお越しになり、一名の遅刻もなく十時半に入門する。

今回は二人の鎌倉シルバーボランティア協会の方に説明をお願いし、二班に分かれる。

城外からは見えなかった大仏様と門に入って初対面。大仏の顔を見ながら歩くところから眼と眼が会うところがあると言う。果たせるかな、視線が合つて快くお迎え頂いたような感じがした。

基壇の前で記念撮影をする。ここから見上げるとさすがに大きい。紺碧の天から螺髪(らうぱつ)の頭がのし掛かる。小学校の遠足の記憶を辿っている方もいた。大仏殿の跡の大きな礎石は丁度良い腰掛、のんびり坐つて晩秋の陽を浴びる。鎌倉の紅葉は遅く周囲の塀を彩っている。点在する句碑、歌碑を見て回る。漢詩の碑は無く、淋しい。

見物すること一時間、長谷寺へ向う。門前のタブの大木を背景に再び記念撮影。寺内は紅葉見頃の土曜日で大混雑。石段を登つて長谷観

音さまに拝顔、木刻の仏像としては日本一と聞く。海を見る。葉山から三浦半島、房総も遥かに望む。頼山陽の「水天髣髴青一髪」の感あり。

弁天窟に入る。奥深く暗く灯明を頼りに歩く。往時は、貧民窟であったのかも知れない。

一時半、懐古亭に集合。高山の合掌造りを移設した家屋で、黒光りする柱や高い天井が印象的だ。ビールで乾杯し会食する。石川、窪寺両先生の即興詩を住田理事の朗詠で聞く。いつもながら、即座に詩が詠せられる蘊奥にただただ感嘆。

柏梁体の韻字は今回は「支」韻で比較的易しい。この程度の一行一句であれば、我々程度でも何とかなる。八〇九句石川先生が選び発表。一行といえども一句の良し悪しを思い知らされる。

お仲間の近況報告、詩吟等々、和気藹々、談笑のうちに懇親の場は終わり、三時、秋の日の釣瓶落としを氣にしつつ散会した。

終



# ◆石川、窪寺両先生の吟行詩

石川先生の詩は律詩です。平明なので書き下しは省略します。

鎌山吟行 石川 岳堂

氣爽鎌山寺 日温冬至前

碑傍集騷客 屋上舞飛鷲

遊勝不仗杖 淨身何用錢

法林一巡後 瀟洒拜金仙

戊子十二月六日謁鎌倉高德院 窪寺 貫道

四訪鎌倉大佛時 四たび鎌倉大仏を訪う時

門前楓樹傲胭脂 門前の楓樹 胭脂 傲る

初冬風冷天澄碧 初冬風冷ややかに天澄碧

尚見柏松青翠姿 尚お見る柏松青翠の姿

又

結跏趺坐出羣塵 結跏趺坐し羣塵を出ず

大佛温顔慈愛勻 大仏温顔 慈愛 勻う

此地風霜經八百 此地の地 風霜 八百を経たり

紅楓银杏映陽隣 紅楓银杏陽に映じて隣す

# ◆柏梁體聯句

鎌倉大仏、長谷寺吟行会

中山 清

前回の経験から、両韻の字や難しい字は避けて、人数から見て支韻の字を選びました。ところが今回は、大方の関心が大仏の方に偏ったよううで同趣の句が多くなる結果となりました。

大勢の場合は韻字を一つに絞らない方がよかつたかなと反省しています。

其一、鎌倉大仏

千年大佛長相思	落紅	石川 晏子
佛前忽覺夢一炊	岳堂	石川 忠久
金銅大佛露坐奇	葦舟	中山 清
如來温顔秋日怡		乘竹 恒男
佛殿重建強不支		内村 才五
仰見玉容長耳垂		水城まゆみ
驅顔宛然美人肌		吉岡 昭夫
仰望清眸暫難辭		横山 真吾
半日洗心塵境離		飯沼 一之
半眼佛像知不知		石井 彦徳
孤鷲天舞悠然窺	簾軒	住田 笛雄
敢避尊顔識仁慈		小松 日出夫
探訪胎内遊人嬉		渡部 淳子
合掌祈何緇衣尼	越山	滝川 智志
如來功德君莫疑	苔堂	圓谷 照男
跌坐大佛不知疲		三上 光敏
千年凝視時代移		小館 裕彦
源家三代看末期		中島 龍一
青眼銅佛濁世悲		岡崎 満義
無限大悲鐵鬼施		城田 六郎
大佛座前苦吟誰	燈翁	玉井 幸夫
如來露坐見殊姿	泰山	岡田 泰男
彌陀大佛垂豊頤		三浦 哲郎
豊頬慈顔吟眸慈	孚允	梅本 光雄
晴天風軟素心披		田原 健一
揮觀清眸喜得詩		三橋 稟也
大佛天空浮雲馳	葉越	坂上 貞夫

佛前黙禱霜風吹	石田 健司
門前楓樹傲胭脂	眞道 隆寺 啓
銀杏黃葉履牆茨	酒井謙太郎
後園疎林錦繡宣	岡崎 勝郎
経年自苔文人碑	森下 栄二
紅風飄影妙知池	大森 正泰
池畔葉堆石如龜	古田 光子
	水葦

其二、長谷寺

長谷寺程隨采旗	磯野 衛孝
三丈觀音錫杖持	在洲 秘庭 慎吾
楓樹回堂紅瀟枝	中野 国武
背後山麓看小祠	神田 英昭
臺上望海賦詩時	室橋 幸子
竹林風來兩耳欹	大谷 明史
秋山有聲松韻遺	笠原 智
	終

◆今秋、全日本漢詩大会

開催さる！

奮って「扶桑風韻」に応募しよう

毎年、全日本漢詩連盟は国民文化祭などを通して全国ベースの大会をバックアップしてきましたが、今年はその大会の意向無く、これに代えて全日本漢詩連盟自体の主催で関東地区の各県連の協賛を得て、東京で全国規模の大会を行うことになりました。

我が神奈川県も協賛の形で支援することになっています。またこれに併せた漢詩コンテストには、選者として、わが県連の会長中山さんが選考に加わりますし、神奈川県漢詩連盟会長賞も出します。  
 【平成21年度全日本漢詩大会募集要領】  
 募集期間 平成21年4月1日～6月30日まで  
 応募規定 七言絶句 一人一首  
 題「月」 応募料千円

関東地区各県連会長

表彰 文部科学大臣賞、全日本漢詩連盟会長賞  
 発表 関東地区各県連会長賞他、秀作、佳作  
 日時 平成21年11月14日(土)午後  
 場所 二松学舎大学 中洲記念講堂

今回の大会は関東地区にせんぶ県連が出来ての初めての共同作業でもあります。ぜひ、この漢詩大会の「扶桑風韻」に沢山の方が応募参加され、昨年からの我が県の好調さをこの大会に繋げ、関東に神奈川漢詩壇ありとの心意気を示したいものです。

応募用紙等詳細はまた追ってお知らせします。

老生独白

「今年はやけに忙しい！3月末までに「横浜開港150周年記念漢詩大会」、6月末には「この東京での「全日本漢詩大会」の扶桑風韻への投稿、出来るかなあ？最近頼に頭が干からびてきているからなあ。」

# ◆ 神奈川県勢受賞相次ぐ！

## ◎ 多久、優秀賞 2 人

毎年全国規模の大会として知られる佐賀県多久市の平成20年度「全国ゆるさと漢詩コンテスト」では、会長の中山清さんと城田六郎さんが優秀賞を獲得されました。最優秀賞を含め僅かに優秀賞4人のうちの二人ですから、その荣誉、価値が違います。

加えて、中山会長は水戸の国民文化祭での特別賞も併せてのダブル受賞、城田さんはその前年でも優秀賞でしたので連続受賞と言う活躍ぶりでした。感服の一語です。

お二人の詩を二披露します。

過閑谷饗 葦舟 中山 清

松林森邃擁庠費 松林森邃 庠費を擁し  
三百餘年弦誦清 三〇〇餘年 弦誦清し

一對霜楮陪聖廟 一對の霜楮 聖廟に陪し

紅黃灼灼映秋晴 紅黃灼灼 秋晴に映ず

身延道中 城田 六郎

深壑巉巖一徑迂 深壑巉巖 一徑迂なり

白雲靉靄日將晡 白雲靉靄 日將に晡となる

巨摩仙境雨餘景 巨摩の仙境 雨餘の景

疑是等楊揮染圖 疑う是れ等楊揮染の圖かと

## ◎ 水戸、特別賞 4 人

「承知の通り、「国民文化祭」の漢詩大会が昨年十一月に水戸市で開催されました。全国から六二五首もの作品が集まる中、我が連盟会員が

特別賞に4人また秀作入選に4人と他府県には申し訳ないような成果を挙げられました。我が県連会員の水準の高さを素直に喜びたいと思います。日頃の「精進」の賜物です。

11月7日は弘道館、借楽園での吟行会と懇親会が行われ、8日に表彰式がありました。紙面の都合で特別賞の詩のみを紹介します。

### ◇ 国民文化祭実行委員会会長賞

借楽園曉鐘樓 芳雲 石川 省吾

好文雪魄耐寒發 好文の雪魄 寒に耐えて発き

吐玉奔泉洗耳繁 吐玉の奔泉 耳を洗つて繁る

紅頰嘗回名苑徑 紅頰 嘗て回る 名苑の徑

白頭尚聽曉鐘聲 白頭 尚聽く 曉鐘の聲

### ◇ 国民文化祭茨城県実行委員会会長賞

過舊居 水社 古田 光子

鳥雀噪庭柴戶壞 鳥雀 庭に噪きて 柴戶壞れ

萬蘿纏牖舊居荒 萬蘿纏に纏りて 旧居荒れたり

唯看先妣手栽菊 唯看る先妣手から栽うる菊

籬畔寥寥對夕陽 籬畔寥寥 夕陽に對するを

### ◇ 全日本漢詩連盟会長賞

櫻花頌 酒井謙太郎

誰教山野發香葩 誰か山野をして 香葩を發かしむ

郭北郭南花又花 郭北 郭南 花又花

三月旬餘拋世界 三月 旬餘 世界を抛ち

田夫吾亦醉流霞 田夫 吾も亦 流霞醉わん

### ◇ 茨城文化団体連合会長賞

燈臺 葦舟 中山 清

屹立瀾頭對水天 瀾頭に屹立して 水天に對す

寒風烈日固恬然 寒風 烈日 固より恬然

明光百里照長夜 明光百里 長夜を照らし

不動不言行萬船 不動 不言 万船を行る

◇ 秀作 「中津川溪谷」 水城まゆみ

◇ 入選 「同袍会」 越山 瀧川 智志

「春宵聽笛聲」 施軒 住田 篤雄

「萬樹秋晴」 榮翠 小林 榮一

以上の皆様が表彰されました。本年も本会員の皆様の健闘を期待いたします。(記 水城まゆみ)



右から、受賞者の中山会長、石川省吾氏水城まゆみさん

## ◆ 水戸「弘道館」のことなど

芳雲 石川 省吾

昨年の国民文化祭の漢詩に応募して特別賞を頂いたのはまさに分に過ぎ望外なことであった。故進藤虚翁先生の「漢詩人」誌には駄作を掲載してもらったが、それ以外投稿歴もない。ただ、水戸で旧制高校生活を送ったというゆかりで、

応募する気になり、かつて借楽園で同窓会が行われたときの事を回想しての詩としたのであった。

実際はここでの高校生活は終戦直後のこと。街は大半が戦災で焼失、校舎も一部しか残っていない状態であり、借楽園とて荒廃のうち、「好文亭」は灰燼に帰っていた。「弘道館」は水戸の藩校で尊王を鼓吹した水戸学の本拠地だが、終戦直後の水戸高は左翼の風が吹きすさび、水戸学などは全く顧みられなかった。今回受賞式に参加できたことで私にとって新知識も得た。

水戸は徳川將軍家の御三家の地の一つだが、その第二代藩主光圀(義公と呼ばれた)は「水戸黄門」の名で知られ、その漫遊記は今もテレビで馴染みが深い。大日本史編纂を始めるなど学問に力を入れたことで知られる。藩外漫遊はどうも史実ではないらしい。そして当時日本一という藩校「弘道館」を建て、三大庭園の一つ「借楽園」を造成したのは第九代藩主徳川斉昭(烈公と呼ばれた)で、領内では藩士からも農民からも神か仏かの如く崇められた。しかし昨年の「篤姫」に登場した如く一方では一徹頑固で煩がられ、天下の副將軍の管なのについて幕政からはずされ、塾居謹慎の処分となる。その子慶喜は一ツ橋家を継いで最後の將軍となったが、維新に当っては恭順の意を表すべくひたすら謹慎した。その部屋は弘道館の一室であったという。

その弘道館は水戸の中心地、水戸駅からも至近のところにあるが、建物はその一部を残すのみで敷地の大部分は官街や小学校に変わっている。

そこに「弘道館記」という碑がある。尊皇攘夷、文武不岐、学問事業一致、神儒一致、忠孝無二を主張する水戸学の精神を表現したものである

が、その書がなかなか見事な隷書である。斉昭撰并書とある。その学風は水戸藩内にとどまらず遠く吉田松陰らにも影響を与え、維新の精神的原動力の一つになったという。借楽園の梅林は甚だ有名だが、弘道館の庭にも梅や竹林がある。梅の実は非常食になるし、竹林は弓矢になる。それも君公の考えによるものであろう。

先日の吟行会で得た蕪詩の一つを恥を承知で添えることにしよう。

詠水戸烈公

弘道精神越一藩 弘道の精神は一藩を越え  
好文香氣満佳園 好文の香氣は 佳園に満つ  
君公存念人知否 君公の存念 人知るや否や  
梅子竹林培土魂 梅子竹林 土魂を培う

終

◆直江兼継の漢詩

去年NHKのドラマ「篤姫」を見た。面白かった。以来かみさんに付き合ひ、今年も「天地人」直江兼継を見ている。

文武両道の名将の触込み、きつと漢詩も嗜んだに違いないと推測し、閑に任せて調べた。あつた。ご紹介する。

雪夜囲爐

雪夜囲爐情更長 雪夜爐を囲めば情更に長く  
吟遊相會古今忘 吟遊相會して 古今を忘る

江南良策無求處 江南の良策 求むる処無し  
柴火煙中煨芋香 柴火の煙中 煨芋 香し

江南の良策とは、兼継が密に「回天の大策」として、秀吉亡き後の戦いに備えていた家康鉄撃の戦略が、石田三成の関が原の敗戦で使えず、やむなく越後へ退却せざるを得なかった事を想い出して言っているのだろう。(田原)

◆お願い

お友達を漢詩作りに誘ってください!

今年もまた4月から第3回目「初心者入門講座」が始まります。(末尾 春の事業予定ご参照) ついては、お友達やお知り合ひで漢詩を作ってみようかと興味をお持ちの方をこの講座にお誘いして頂けないかという事です。

ご承知のとおり、神奈川県漢詩連盟の生命線は新人養成にあります。新しい人のエネルギーが、連盟の活気を惹き起こしています。第1期生は「金星会」と言う吟社を結成し、第2期生も「三水会」の名の許に活動を開始しております。

お陰さまで回を重ねることに経験を積み中山会長の講義も快調で判り易くなると同時に我々理事のグループ指導もますます優しく厳しくその効果を挙げてきつつあります。

安心してお勧めください。事務局田原まで、電話でお知らせ下さい。

# ◆研修会に出席して

## 飯沼 一之

今回の研修会は、新しい試みとして「選句会方式」が採用されました。応募詩に番号を付し、

作者名を伏せて清書コピーされた応募詩稿集が事務局から参会者に郵送配布されてきました。参会者の我々は、その中から熟読玩味して予め

入選作を選んでおくのですが、各人の持点は4点、特選は2点佳選は1点です。通常は特選1篇、佳選2編を選びますが、特選二篇のみ、或いは佳選4編の選択もありとのことでした。

研修会当日は、参会者は順次自分の選んだ詩を席上披露して、選んだ理由、所感を述べます。白板上の詩の番号の下に各人選択の投票の結果が記録されていきました。

集計が終わった後、得点の多い順に、作者が明らかにされ、作者は自分の詩についての意図や反省点などを述べます。出席者はまたそれに対して意見、助言、批判等々がかなり自由闊達に飛び交いました。

私はこの方式を大変良いと思いました。その理由は

1. 選ぶために応募詩を熟読する。
2. 選句の理由を明確に把握する。
3. 討議では漢詩の研鑽と言う一点に絞つての

真摯で自由な応酬が出来る。と言つてよい効果でしょう。

この日も甲論乙駁、大変な盛り上がりで3時間は

瞬く間に過ぎました。

また席上、漢詩における「雅」、「和習」が話題となりましたが、私には難しい問題です。結局は、三多(多く読み多く作り多く推敲する)に勉める中で次第に会得できるのかなと思っております。



最後に、この日披露された詩の中から、私が魅かれた一首をご紹介します。

欲登国上山寺泊 横山 真吾

青空五月凱風雍 欲聽未聞山上鐘

浩浩大瀛横淡影 遥懷老衲暫留筇

国上(くがみ)山で老衲とあれば良寛のことでしょう。仏道修行に精進したが自得できず、諦念の余生を送った国上山の五合庵。貞心尼との和歌の贈答。そんな晩年を心に画きながら、佐渡の島影の浮かぶ日本海に向かって立ちつくす詩人の姿に、たいへん感銘を覚えました。

終

# ▽事務局から

今回の研修会は、参加者多く37名のご希望あり、また新しい試みとして「選句会方式」で実施のため、二グループに分け二回開くことと成りました。事務局としては、嬉しい悲鳴でした。無謀な冒険、如何あいなるか危惧しました新方式でしたが、まずまず皆様のご賛同を得たように、暫くはこのやり方で実施しようということになりました。

AB両グループの最高得点の詩をご紹介します。

☆Aグループ最優秀作

籬菊 水城 まゆみ

鞭靱寒風捲地来 紅楓葉落柳枝摧

堪憐玉蕊傲霜發 欲泛幽香佳節杯

☆Bグループ最優秀作

憂食糧乏糧 飯沼 一之

豐饒禾黍碎為油 四海魚鰕喘暖流

本是資源貧困國 飢窮漸漸薄蜻洲

この次の研修会は6月11日(木)と6月25日(木)に神奈川近代文学館で開催予定です。皆様の大勢のご参加をお待ちしております。



## ◆湘南吟社について

苔堂 圓谷 照男

江南青帝綻花時 相約鷗盟創會宜

清韻雅吟詩骨健 世間高踏趁襟期

平成十年三月、湘南吟社発足に際し吟社に寄せる想いを賦した一詩、漸く盤底より探し得て今昔の感を新たにしている次第です。

思えば十年前我が家を建て直したのを機に従来より交誼を得て、時には喧々時勢を憂え、又時には雪月花を雅韻に託し共に襟懷を疲労し合った故友をいざない、隔月定期的に我が家に集い、残年を共に愉しむ事とし、これを名ずけて湘南吟社といたしました。

韻をそろえた鷗盟六名、既に現役の活動を終え豊かな社会経験を有すると共に今は風流に身を委ねているお歴々にて、雅懐、警世いづれも謙譲の裡にも自から持するものあり、吟社例会の場においてには麦酒の勢いもあり調時移るを覚えざる事久しきに及びました。爾来、平成十三年五月よりは戸塚駅近くに会議室を確保することができ会場をそこに移すこととなりました。

又時の流れは会員構成にも変化をもたらした本年一月までに物故された会員は三名に及びましたが新会員の加盟を得て総員は当初と同じく六名を維持しております。

昨年七月には創立十周年を記念し例会の場所を伊豆の湯宿に移し、前六月に仙遊された詩友市川泰先輩を偲ぶと共に杯を傾け清談三更に及び、翌

日は下田へ吟行を行い、懐旧の情を新にしました。例会の運営は特に指導者は設けず会員各位の投稿詩各二篇(自由題)につき当人の発表に基き夫々が忌憚無き意見を述べ合い、より良き詩韻を得るようにしております。今後とも各位の活発な発言がより高い格調をうみ、当吟社が会員各位にとつて充実した残年の一助ともなるよう努めて参りたいと念願しております。 終

## ◆新人の勉強会発足

代表 中島 龍一

初心者入門講座二期生の有志十七名で漢詩の勉強会を持つことになりました。

中山会長、田原局長の勧めによるもので生徒の中から四名の世話人が指名を受け、(大谷、小松、中島、吉岡)勉強会の企画を受け持ち何度かの内合わせを持ちました。

会の目的は偏に「自分で漢詩を作ることが出来るようになること」で、この目的達成の使命感を胸に活動を開始したところです。

昨年11月19日に初会合を持ち、勉強会の名称を『三水会』として、二ヶ月毎、奇数月の第三水曜日(横浜西口の大衆割烹で)例会を開くことが承認されました。

会の運営は私達の自主勉強会ですが、初心者どうして議論しても上達の効率が宜しくないの思から、会の顧問として古田光子、水城まゆみの両先生にお願いしまして、概括的な指導を戴き

『三水会』の方向が正しく進むよう、脇から見守って頂くことにしました。上達するまでとは申しませんが軌道に乗る迄、暫くの間宜しくお願い致します。

早速、1月21日(水)に課題「横浜港」で作詩した自作のコードー20部を持ち寄り互いに配布して一旦持ち帰り勉強の上3月の例会で討論することにしています。どのような議論になるかはこれからですが、活発な勉強の場になるよう皆さんと共に努力するつもりです。

中山会長が言われましたが、趣味で漢詩を始めたいにしても、やる以上は時間、労力、費用を惜しんではいけないことでした。また他人の作品を褒めるより欠点を指摘する方が互いに刺激になり上達に繋がることも話されていました。『三水会』でもたくさん指摘が出来るよう下調べを十分した上で例会に臨みたいものです。

孔子が言っています。「君子には三つの戒めがある。若い時はまだ落ち着かないから戒めは女色にある。壮年になると今や血気盛んだから戒めは争いにある。老年になると精気は衰えるので戒めは慾にある。しかし漢詩が上手になりたいという私達年寄りの慾は、これには当たらない筈。この慾求を強く持つて、努力継続することが大切なこと一同自分を戒めております。

どうぞ東漢連の諸先輩におかれましては、未熟な二期生を厳しく暖かく励まし折にやれど指導くださるようお願いいたします。『三水会』発足の報告とさせていただきます。

終

# ◆自詠自吟一如を目指して



宇都宮 義久

インタビュー形式で相州岳風連合碩心会の  
宇都宮さんのお話を伺いました

(聞き手 桜庭 慎吾)

Q 詩吟を始められた契機は何でしたでしょうか  
又最近の吟会のご様子は如何でしょうか。

A 会社勤務の間は趣味などは社業の邪魔になると考えていました。昭和51年に岳風会傘下の碩心会に入り、詩吟を始めようになりまし  
た。爾来、33年間続けてきて平成15年には総  
伝位、昨年には宗佑の冠称を頂きました。

二年前に我が碩心会と翔風吟道会、誠吟会、  
青嵐会の四会が、会員の吟力の向上と若手会  
員の増強を目指して「相州岳風連合」(会員約千  
名)を結成し、平成20年9月、第二回吟道大  
会を鎌倉芸術館で開催し約500名が参加し、  
独吟、合吟、詩舞などの競演により、吟力の向上  
と会員交流の実を上げる事ができました。

Q 漢詩作の方は如何でしょうか

A 旧制の県立水戸中学校同窓会の席上、同級  
生が詠じた自作の詩に、母校の教訓や水戸の風  
物が詠み込まれている内容に強い感動を受け、  
その友人の指導で漢詩を始めるようになりまし  
た。その後幾多の変遷があり、現在は修文会の

名の下に有志が結成し勉強会を開始しました。  
25年やってきましたが、「こちらの方はなお道遠  
しの感があります。渾身の作を作って、朗々と詠  
いたいと思っています。

書道の「自詠自書」の世界が究極の境としてある  
ように「自詠自吟」の世界で、仲間をもっと広げ  
たいと思っています。

Q 詩吟、漢詩作を続けてきて良かった点は

A 詩吟33年、漢詩作26年、長く続けてき  
たことで、年齢を越えて多くの友人を得たこと  
ですね。今では貴重な「宝物」となっています。

Q 若い世代に期待したいことは

A 4千年の中国文化の粋である漢詩は、奈良時  
代より日本に入り日本文化と融合し定着化した  
もので、漢詩を中核として詩吟に書画に舞踊に広  
がって日本人の教養となっています。ぜひとも若い  
世代に詩吟漢詩愛好の仲間が増えて欲しいと思っ  
ています。聞く所によれば、東京都世田谷区が「  
日本語特区」に認定され、小中学校用の日本語の  
教科用図書を作成し平成20年4月から授業を開  
始した由、その教科用図書には5首の絶句と律  
詩が載っているそうで、良い方向ですね。この漢詩  
の授業に私たちが養成した若い同世代の吟士が出  
向いて吟じることが出来ればと思っています。この  
文化の継承、発展にどうしたら成果が上がるか、  
年寄りも年寄りなりに努めたいと思う次第です。

# ◆新刊の紹介

## 「先生あるいて来ました」

横山精真(真吾)著

本会員の横山真吾さんが、昨年末表題の本を  
出版されました。惹句の「東海道・山陽道 漢詩  
で綴る 吟行記 全七十三詩」のとおりの内容で  
鎌倉の円覚寺から始まったの旅は、若き日の赴任  
地小倉で詩吟の師に出会った龍吟堂で終わってい  
る。現在はこの出会いから岳精流日本吟院の宗家  
として吟詠の指導に「活躍」である。ある意味「自  
分の人生をも辿られた吟詠吟行の詩集である。  
大変立派で見やすい読みやすい本である。  
その中から一詩、東海道を下って京都で石川丈山  
の山荘詩仙堂を訪ねられた折の詩です。

### 遊詩仙堂

古人坐處滿庭幽 古人坐する処滿庭幽なり  
緑蔭清沙洗放眸 緑蔭清沙 放眸を洗う  
遠客忘機興風韻 遠客機を忘れ 風韻に興じ  
暫時長嘯思悠悠 暫時長嘯して 思悠悠

興味のある方は横山氏に「照会」ください。  
(045-582-0889 定価1500円)





# ◆明治生まれの日本画家の

## 柏梁体

岡崎 満義

12月6日の吟行会で「柏梁体」作りを楽しんだ。柏梁体とは「七言で句」ことに韻を踏む。

漢の武帝が、長安城内に建てた柏梁台に、群臣を集めて作らせた詩に始まること、辞書に出ている。風雅な遊びだが、各人が自由気ままに作った七言一句を上手に並べて、全体としてまとまりのあるストーリー性を持たせる。編集者には、相当な力量が要求されることになる。面白うてやがて苦しき作業かなというわけだ。

10月、葉山町にある山口蓬春記念館へ行った。御用邸の近くに神奈川県立近代美術館葉山があり、その斜め前、道路を隔てた山側の小高い丘の中腹に、蓬春記念館はあった。バス停から坂道をほんの五、六分登ったところ、広い庭と緑の木々に囲まれた木造2階建ての家だ。

日本画家、山口蓬春が晩年をすごした家が、そのまま記念館になって、一般に開放されている。ゆつたりと広いアトリエには、大きなテーブル、絵具、画筆も生前そのままに残されている。床から天井まで大きな窓ガラスからは、樹木のむこうに陽光にきらきら光る海が見える。そこで「山口蓬春と福田平八郎二人展」が開かれていると知って、妻と二人で出かけた。展示さ

れた絵は余り多くなく、やや拍子抜けの感じだったが、二階の広間の隅の大きなガラスケースの中に、思いがけず柏梁体の掛軸を発見した。軸のそばに活字の印刷もあったが、字が小さくて読めない箇所もある。

月明此夜始芳香 蓬春

□花点点行雲長 紫雲

平田苦楚弄文章 虎雄

參客皆待大雅堂 百舛居

今宵不図有濫觴 毅一郎

酒肴同席器□望 莊八

中秋良夜美酒芳

青松林中踏月光 岳陵

月下研□第一場 初風

静夜三更雁数行 紀元

又是浮世神仙郷 素心庵

後寄

□涙数行閑中忙 平八郎

对月懷□亦何妨 田軒

右蓬春先生主催乙亥中秋觀月宴席上

柏梁体詩 素心庵識

親しい画家仲間が集まって、中秋の名月を見ながら酒を飲み、絵の話をしながら、和氣藹々と柏梁体に打ち興じている様が彷彿としてくる。蓬春と平八郎は明治25、26年の生まれだ。明治人には当たり前のこととして、余技としての柏梁体を皆で楽しむ教養が、それぞれに備わっていたのだ。

終

# ●市川泰さんを悼む

湘南吟社や窪寺教室で活躍だった市川さんが昨年6月90歳でお亡くなりになりました。背筋の伸びた清容そのままのお姿が偲ばれます。窪寺先生から哀悼の詩を頂きました。

哭市川泰翁 窪寺啓

自稱船匠九旬翁 自ら船匠(船大工)を称す九旬

の翁

瀟洒恬然弧鶴風 瀟洒 恬然 弧鶴の風

南海崎陽又仙嶽 南海の崎陽(長崎)又た仙嶽

遺篇空読悵悵中 遺篇空しく読む悵悵の中

同郷長崎生まれということで編集子も薫陶を受けました。ご冥福をお祈りします。

悼白髮翁 田原健一

(9)

西山暮靄動鄉情 南海星光憶遠征

何故遊仙乘鶴去 空聞夏玉朗然清

# ◎会員動向

▽新規加入(平成20年6月以降)

永津憲明(横浜市) 田中成器(横浜市)

石田健司(座間市) 森本英之(横浜市)

若林海司(小田原市) 高津有二(海老名市)

▽退会

市川 泰 (逝去) 岩城隆和 (逝去)

山本博一 (逝去) 岩崎徳康 (逝去)

松田静子(転居)

▽会員数 123名

お友達をぜひお誘いし入会させて下さい。

# 今年の春のスケジュール

カレンダーに予定を記入しましょう

## ●年次総会

第4回年次総会は、例年通り記念講演と懇親会をかねて実施します。

又、「横浜開港150周年記念漢詩大会」の表彰および講師も併せ行います。

▽時期 平成21年6月21日(木)午後1時～4時

▽場所 神奈川近代文学館 2階ホール

▽記念講演は石川忠久先生です。漢詩大会の講師も兼ねてお話を頂きます。

▽懇親会はすぐ近くのホテルポートヒルの予定です。午後4時～6時

## ●研修会

前回にひきつづき「選句会方式」で実施します。

事前に漢詩一首を「ご投稿願ひ、集まった詩稿は作者名は伏せてコピー、参加者にお配りします。その詩稿の中から、特選詩1首佳選詩2首を事前に選考して頂いておいて、当日発表してもらいます。ニグループに分けて実施します。

▽時期 平成21年6月11日(木)、6月26日(木)午後1時～4時

▽場所 神奈川近代文学館 2階会議室

▽詩稿提出期限 平成21年5月30日(土)まで 事務局宛(期日厳守)

## ●初心者入門講座

第3回目の講座を例年通り実施します。

漢詩作りは初めての方、或いはもう一度勉強し直してみようとお考えの方の為の講座です。奮ってご参加ください。お友達と誘い合わせてトライなさるのも一策です。

▽時期 平成21年4月16日(木)30日(木)5月14日(木)6月4日(木)18日(木)

7月2日(木) 計6回の授業 午後1時～4時

▽場所 神奈川近代文学館 2階会議室

▽講師 中山清会長 他

▽申込 業書にて事務局あて申し込む。申込期限 平成21年3月31日(火)

## ●吟行会

今年秋、11月頃を予定しています。場所時期は確定次第お知らせします。

## ◆編集後記

▽「冬虫夏草」と言う言葉がある。使えそうな

「詩語」と思ったが、なんと茸の名前である。

地中の幼虫に茸の菌が寄生し、夏になると茸が虫の体を突き破り、茸として地上に芽生えてくる。宿主は蟬や蜂や蛾等さまざま。主な産地はチベット高原、雲南省、青海省、甘肅省辺りの山奥の由。これが西洋のトリュフに劣らない珍味で四川料理の薬味として珍重され鴨料理「虫草鴨子」には欠かせないものだそうである。

物好きにも現物を見たいと思い、横浜中華街の食材専門の店を訪ねた。店の主人が倉庫にまで探しに行つて見せてくれた。確かに白い蛆虫の頭から紐みたいな茸が伸びて干からびた「冬虫夏草」であった。買わざるを得なかった。

値段は一袋に10匹ほど入つていて6千円。

暑いお酒に浸して飲めば宜しい由、未だ機の抽斗の中にあつて試していない。

芋虫と茸が合体して、冬は虫、夏は茸に転生する姿を何とか詩にしてみたいと頑張つてみたが、これもまだ出来ない。

▽この会報がお手許に届く頃は、政局はどうなつていのだろうか。政治経済の大変動がじかに響かない里住まい、決まれば、忸怩たる気もなく受給一時金も貰うであろうこの身、塵街を恣う一抹の寂しさもある。

▽春のスケジュールを上記のとおり固めました。ぜひどれかの行事には参加してください。勿論全部に出席も、大歓迎です。(田原)

